

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日
平成 30 年 4 月 13 日

事務事業名		動物のれき死体処理			事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け			新規/継続	継続	事務事業No.	050803000244
		総合計画の施策名			単独/補助	単独	所属課	030301
		0508 生活環境の保全			主要事業		生活環境課	
政策体系		政策名	05	快適な暮らしのまちづくり	市長マニフェスト			
		施策名	08	生活環境の保全	未来PJ事業		グループ	
		手段名	03	③公害防止活動の推進	合併建設計画事業		環境公害対策G	
財務会計上の位置付け					事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	単年度繰返し (年度~)	
法令根拠							← 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入	

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
道路、公園、広場その他の公共の場所において、所有者のわからない犬猫等れき死体の収容を行う。	動物れき死体通報受付。現地確認れき死体処理。 じん界処理場勤務の川が-職員へ通報して処理を依頼する。 雨天時、また川が-職員が別の勤務を行っている場合、若しくは職員が出向いた方が容易な場合は、職員が処理を行う。

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
・現地確認及び嘍死体の処理。 ・シルバー職員への処理依頼。	通報等があったれき死体頭数	頭	150.00	142.00	150.00	150.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
市民・犬猫等れき死体	現地を確認した死体頭数	頭	150.00	142.00	150.00	150.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
衛生上の管理及び県市道の安全確保	れき死体収容頭数	頭	150.00	142.00	150.00	150.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移		28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	期間限定総投入量
投入量	事業費	国庫支出金 千円	0	0	0
		県支出金 千円	0	0	0
		地方債 千円	0	0	0
		使用料・手数料 千円	0	0	0
		その他 千円	0	0	0
		一般財源 千円	0	0	0
	事業費計 (A) 千円	0	0	0	
人件費	正規職員従事人数 人	5.00人	5.00人	5.00人	
	述べ業務時間 時間	172.25	226.45	150.00	
	人件費計 (B) 千円	504	662	439	
トータルコスト (A)+(B) 千円		504	662	439	

事業費の内訳	29年度事業費 実績 (千円)			30年度事業費 予算 (千円)		
		合計	0		合計	0

(4) 当該年度の実施内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容	32年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する			
<ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 			

事務事業名	動物のれき死体処理	事務事業No.	50803000244	所属課	生活環境課
-------	-----------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
<p>本来は、市だけでなく国や県が行う事業であるが迅速に対応できないため市が協力している。 市が収容したれき死体の内犬と猫については1頭当たり約2,000円「動物愛護管理関係事務処理特別交付金」というかたちで交付税に算入されている。 市ゴミ回収委託車について、回収中に発見した場合は無償で回収をお願いしている。 以前は市民の協力により収容頭数が少なかったが現在は年々増加傾向にある。</p>	
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
<p>犬、猫だけでなく、ハクビシン・狸などの通報も多い。 公共の施設等の対応を行っているが、「自宅敷地で犬猫が死んでいるので処理してくれ」など身勝手な要求がある。</p>	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	猫は室内飼育が義務付けられているが、依然として放し飼いが多い。また野良猫に餌付けを行う市民がいるため、野良猫の頭数が減少しないことなどがれき死体の頭数に比例していると考えられる。継続して飼養についてのマナーアップ広報を行う。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 快適で潤いのある生活環境づくりに結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 国や県が迅速に対応できないため市が協力しなければならない。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 飼い主のマナー意識がアップすれば、れき死体は減少すると思われる。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 快適な住環境で暮らすことを維持するためには、犬猫等のれき死体は一般廃棄物となるので市としては放置できない。
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業がない。
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ・職員が業務内で対応しているため削減の余地はない。 ・平成26年度より、ごみ収集及び清掃業務委託事業に付随して、シルバー人材センターに委託。緊急時等は正職員が対応する。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)
<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 快適な住環境を維持し守るためには必要である。	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	犬においては放し飼い等禁止の啓発を行っているのでかなり減少しているが、年々ハクビシン等の犬猫以外の動物が増加している傾向にあるため減少していない状況である。 また、平成26年度よりシルバー人材センターに委託しているため、平成25年度と比べ約100時間程度業務時間が削減されている。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 現状維持		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下			×																						
ハクビシンやタヌキなどの犬猫以外の動物のれき死体が増加傾向にあるが、これらの動物の死亡事故等の減少は難しいため、犬猫の放し飼い禁止の啓発や野良の減少を目指すべきだと考える。		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果	⑤																							
		コスト削減優先度評価結果	⑧																							

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>